令和８年度 JST研究公正セミナー

データ管理編・共同研究編のねらい

なぜ私たちはこの物語を作ったのか

東京慈恵会医科大学
教授 **嘉糠 洋陸**

なぜ私がこの教材制作に関わったのか

東京慈恵会医科大学

研究公正の監視者

- ✓研究公正の”現場担当”
- ✓研究不正/告発案件の対応
- ✓研究公正教育への関与

＋

TVドラマ・小説等の監修者

- ✓医療・研究系ドラマ
- ✓サスペンス小説
- ✓医療系の舞台

↓

JST教材制作への参画

【データ管理編】 プロット作成 シナリオ作成 撮影監修
【共同研究編 初期】プロット作成

長年、現場で培った経験を基に、教育教材の形での可視化へ貢献

研究不正のトレンドは変化している

従来

✦捏　造
✦改ざん
✦盗　用

特定不正行為

FFP

Fabrication
Falsification
Plagiarism

シフト

現在

✤データ管理
✤オーサーシップ
✤利益相反
✤共同研究

好ましくない研究行為

QRP

Questionable
Research
Practices

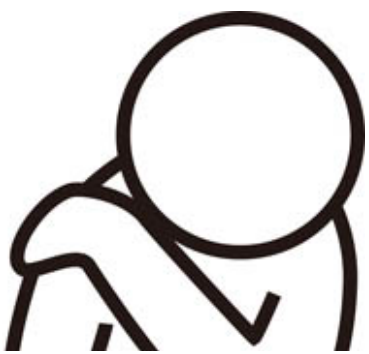
問題の本質は「不正」より前の段階にある

研究公正のポイントは「悪意のある不正」→「日常の研究活動」へ

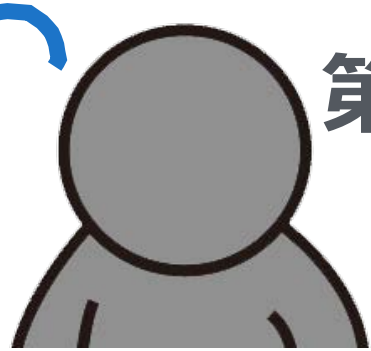
研究不正の真の怖さ

外部から区別が付かない

ミス ≠ 故意



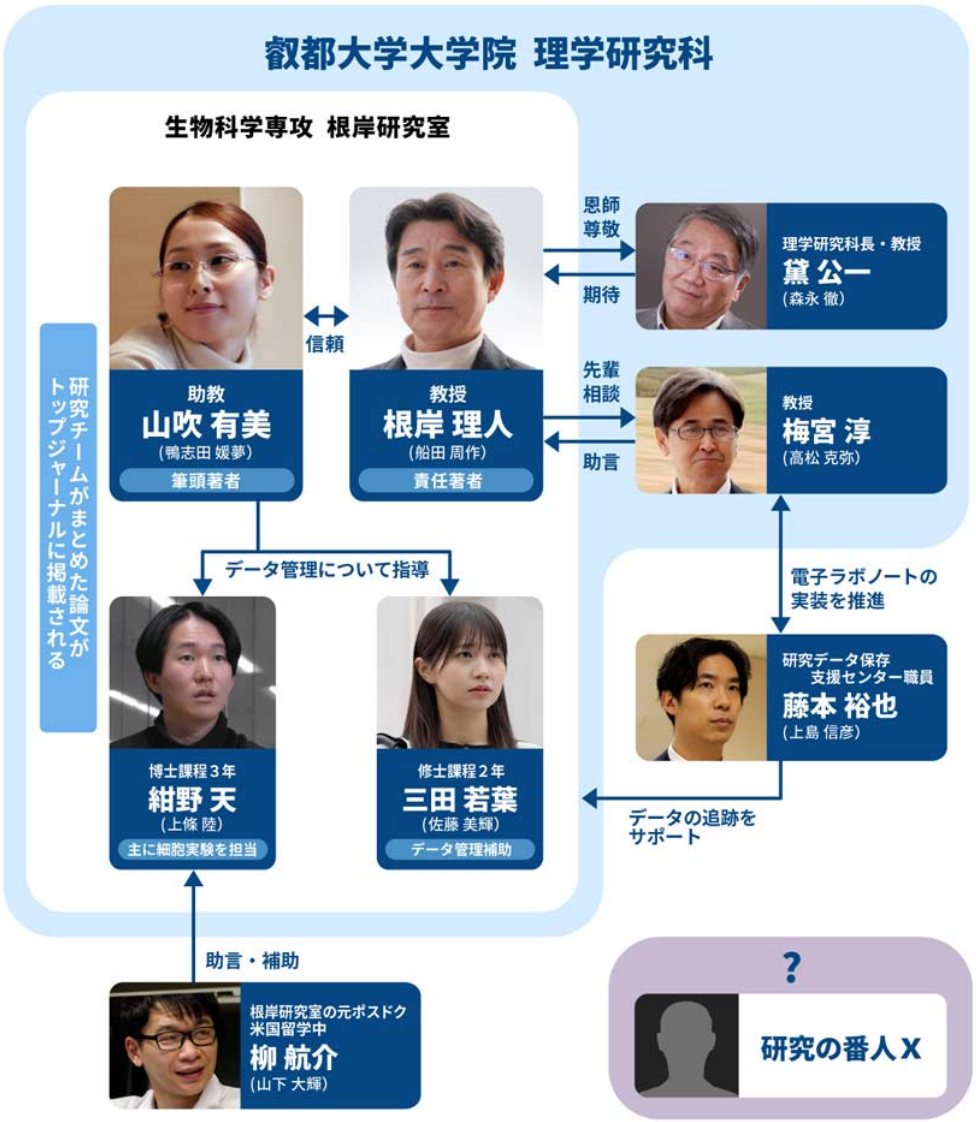
反証責任は
原則、本人に



第三者

「私は正しい」という主張ではなく、第三者が検証できる根拠が必要

データ管理編 ― 研究者を守るものは何か？



https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_movie/mtm_gapsinethics5_1.html

あらすじ

注目を集めた研究論文に、SNS上で突然持ち上がった不正疑惑。研究者たちは「不正などしていない」と確信するが、疑惑を否定することは想像以上に難しかった。研究記録をたどる中で、やがて意外な真実が明らかになる。

主人公は…
- ✕ 研究者
- ○ 研究記録

研究者の記憶ではなく、記録だけが第三者による検証に耐える

データ管理編 ― 狙いとポイント

ドラマで描いたこと

- 元データの追跡
- 操作履歴の確認
- 記録と証言による検証

伝えたかったこと

- 「不正が無い」証明の難しさ
- 重要なのは第三者検証可能性
- 記録は研究者の盾になる

データ管理が研究者を守る

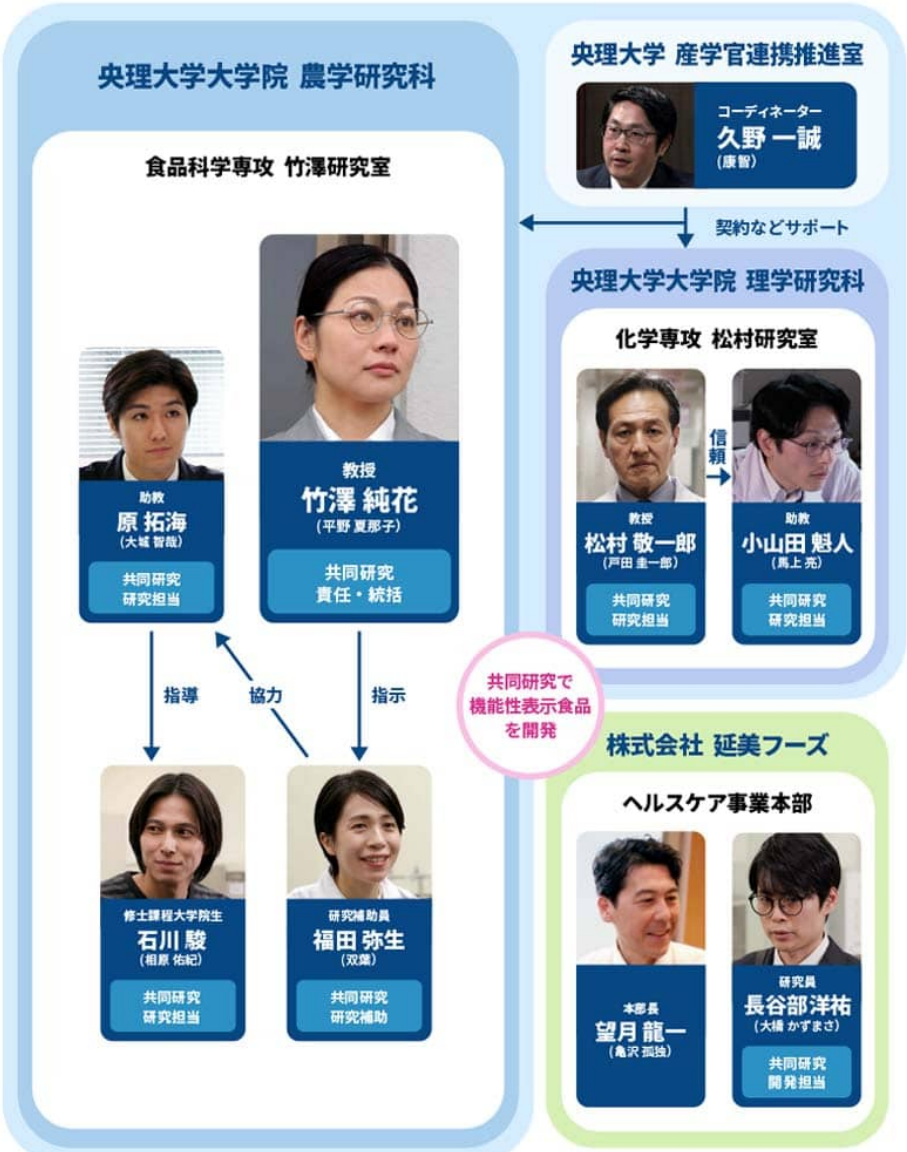
研修や授業での問いかけ

- 自分の研究室ならどう対応するか？
- 自分のデータは調査に耐えられるか？

適切なデータ管理は、研究成果だけでなく研究者自身の信頼を守る

共同研究編 ― 正しい人同士でも問題は起こる

東京慈恵会医科大学



https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_movie/mtm_gapsinethics5_2.html

あらすじ

企業との共同研究が始まるが、契約、情報共有、役割分担を巡る小さな行き違いが次第に大きな問題へ発展していく。データ異常や秘密情報の漏洩危機を通して、共同研究における信頼とコミュニケーションの重要性を問い掛ける。

問題の原因は…

- ✕ 悪意や故意
- ○ 認識のズレ

➡ 共同研究の問題の多くは、コミュニケーション不全から生じる

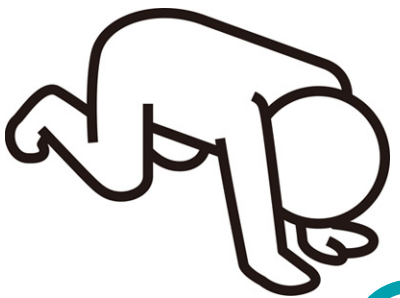
共同研究編 ― 狙いとポイント

ドラマで描いたこと

- 役割分担
- 情報共有
- 秘密保持

伝えたかったこと

- 世代差・立場差・組織差
- 価値観の違い
- コミュニケーション不足



正しい研究者同士でも問題は起きる

研修や授業での問いかけ

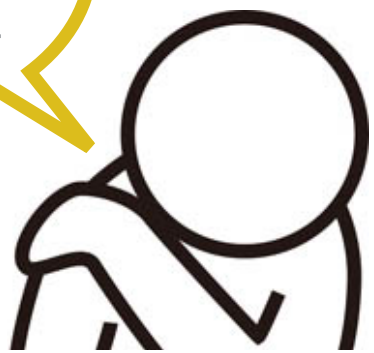
- 共同研究で困った経験はないか？
- 自分ならどの時点で声を上げるか？
- 自分の研究室ならどう対応するか？

共同研究では、信頼だけでなく、確認し合う仕組みも必要である

ドラマ制作時に意識したこと

ヒューマンエラーは
必ず起きる・誰にでも起こる

状況認識
判断決断
行動動作



- データ管理
- チェック体制
- 情報共有
- コミュニケーション

「犯人探し」ではなく「仕組みを考える」

研究公正教育の目的は、問題を未然に防ぐ仕組みを考えること

今日の話のまとめ

責任のある研究活動

✕ 単に不正をしないこと・回避すること
○ 信頼される研究を継続・実践すること

不正を防ぐのは、個々の人格ではなく

記録　**対話**　**組織**

➡ 「研究者個人の善意」に依存しない仕組みづくりを！